

令和5年度第1回岡崎市環境審議会 会議録

1 開催日時

令和5年5月11日（木）午後2時から午後3時半まで

2 開催場所

岡崎市役所福祉会館 6階大ホール

3 内容

- (1) 辞令交付式
- (2) 会長の選出及び職務代理者の指名
- (3) 岡崎市における気候変動対策推進のあり方について（諮問）
- (4) 岡崎市指定希少野生動植物種の指定について（諮問）
- (5) 岡崎市一般廃棄物処理実施計画における家庭系ごみの分別区分の変更について（答申）

4 出席委員の氏名（五十音順）

(1) 出席委員

今村ひとみ、岩月幹雄、大美昇治、片岡明博、片山鑛一、河江喜久代、川田奈穂子、阪口奈央、佐々木健吾、鶴田和男、鳥山紀幸、丸山泰男、吉永美香、渡邊幹男

(2) オンラインによる出席委員

香坂玲、杉山範子、橋本啓史

(3) 欠席委員

佐谷智、藤田真須美

5 説明のために出席した職員の職氏名

環境部長 新井正徳

環境部次長兼ゼロカーボンシティ推進課長 蜂須賀功

環境政策課：課長 雑賀章友、自然共生係長 森本徳恵、主任主査 高須康年

ゼロカーボンシティ推進課：担当課長 古瀬川英樹、副課長 河隅清浩、事業企画係長 植村信幸、事業推進係長 船山哲

ごみ対策課：課長 木村敏弘、副課長 泉弘文、ごみ施策係長 中嶋正行、資源循環促進係長 大竹和彦、主事 小林周平

6 出席した事務局の職氏名

環境政策課：副課長 手島洋二、環境活動推進係長 中村亮太、主事 伊藤駿

7 議事要旨

(1) 会長の選出及び職務代理者の指名

会長は渡邊委員から丸山委員を会長に推薦する意見があった。他に会長を推薦する意見はなく、丸山委員を会長とすることに委員全員から拍手の賛意があり、丸山委員を会長とすることとした。

職務代理者の指名については、丸山会長から渡邊委員を職務代理とする発言があり、渡邊委員を職務代理とした。

(2) 岡崎市における気候変動対策推進のあり方について（諮問）

事務局より諮問内容について説明した後、質疑応答がなされた。

（渡邊委員）

生物多様性の保全や気候変動対策の推進がなぜ重要なのかということが市民になかなか浸透しない。条例の話とは少し違うが、市民がそのような問題に関りを持ち、実際に体感することのできる事業を実施する必要があると思う。県と実施している事業で、シロバナタンポポの分布域がどの程度拡大しているかの調査がある。シロバナタンポポは元々西日本のみに生育していたが地球温暖化により分布域を拡大している。どの程度拡大しているかの実態を明らかにすることで、地球温暖化がどの程度進行しているかを体感できる。これをすれば確実に市民に気候変動対策の意識を根付かせることができるというものはなかなかないが、できることを一つ一つやっていくしかない。

（ゼロカーボンシティ推進課）

今回は条例について諮問させていただいたが、条例だけでなく、それを踏まえて具体的に何をやっていくかということについても御意見を頂ければと思っている。具体的な実施内容については、場合によっては昨年度改定した岡崎市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に書き込んでいくことも検討する。

生物多様性と気候変動についても切り離せない関係であると思うので、しっかりと検討する。

（吉永委員）

2050年にゼロカーボンになることが目標であり、今現在ゼロカーボンの建物を増やしていくことが、市全体で考えると必ずしも効率的であるとは限らない。ZEB、ZEHの建物がゼロエネルギー住宅として最高ランクではあるが、昔ながらの古民家のような断熱性能の全くない建物をそこそこの断熱性能に底上げするほうが市全体の脱炭素化を考えたときにコストパフォーマンスが高い。ZEB、ZEHという言葉に踊らされず、いかに省エネ住宅を市全体で増やして市全体のCO2排出量を減らすかということを行政が考えなければならない。

（ゼロカーボンシティ推進課）

現在、ZEH等の住宅への補助をすでに実施しているところであるが、重点対策加速化事業で新たな交付金が交付されることが決まり、来年度以降から6年間、集中的に住宅や中小企業に対して何かやっていければと考えており、制度設計をしていく予定である。制度設計する上で、考え方の一つとして今の御意見を参考にさせていただきたい。

(川田委員)

説明資料にある気候変動対策は、市民が常日頃、日常的に実施できることではない。気候変動対策推進には市民一人一人の取組みが重要だと思う。条例に記載することではないかもしれないが、子どもも大人も市民全員がちょっとずつでもいいので日常的に気候変動対策に取り組む意識を持てるような施策も進めてほしい。

また、個人的に移動の際、環境に優しい行動として、自転車を使うことを意識しているが、駐輪場が有料になることは気候変動対策とは逆行したことになるのではと思ってしまう。市民の気候変動に対するちょっとした取組みを応援してあげられるようなことを考えていってほしい。

(ゼロカーボンシティ推進課)

条例制定に際し、県や他市の先進事例を調査しているが、市民が取組める内容というのも重要であると思う。そういったことも検討していきたい。

(片山委員)

条例を制定しても、市民の人々に伝わる内容でないと意味がない。条例と共に具体的な施策も必要。自分のした気候変動対策の行動が条例のどの部分につながるのかが分かり、気候変動対策の取組みをした実感を持てるような仕組みを考えてほしい。

(ゼロカーボンシティ推進課)

基本的な考えである条例、それを踏まえた具体的な施策を盛り込んだ計画という2つが組み合わさって行政の業務は進んでいく。今回の諮問は基本的な考えを記載する条例の方で意見をいただいているが、もっとわかりやすい内容にすること、計画に市民の方々に実施していただくことなどを盛り込んでいきたい。

(3) 岡崎市指定希少野生動植物種の指定について（諮問）

事務局より諮問内容について説明した後、質疑応答がなされた。

(川田委員)

グンバイトンボは愛知県でも生息地が残り少なくなっており、全国的に見ても愛知県より東側では生息地が限られており、グンバイトンボの日本の中での生息地の東限が岡崎市になってしまう可能性があるほど希少な種となっている。ちょ

うど鳥川ホタルの里が 30 by 30 の申請をしており、保護地区に指定されれば、その他の種も含めて保全しやすい状況になるため、指定するには良いタイミングであると思う。次回、現地視察の際に実際に見ていただければゲンバイトンボの魅力を感じてもらえると思う。指定希少野生動植物種に指定されるということは決して喜ばしいことではないが、指定を機に保護が進んでほしい。

(鳥山委員)

保護の仕方も様々ある。ホタルであれば積極的に関与していき、ホタルの幼虫のエサになるものを放流したり、生息環境が壊れないように維持していくといった方法があるが、ゲンバイトンボの保護についてはどういう方針を持っているのか。数を増やしていくのか、現状維持を目指すのかといったところを教えてほしい。

(環境政策課)

鳥川ホタルの里は、鳥川町の住民全員が「鳥川ホタル保存会」という鳥川ホタルの里の保全を実施する団体に加入している。ゲンジボタルの保全を住民で実施している場所であるので、ゲンジボタル同様、ゲンバイトンボのことも理解いただき、住民の皆さんと保全していければと思っている。現状維持あるいは生息環境を整えば生息数の増加というところも期待するが、まずは指定して住民の皆さんと保護していく体制をしっかりと整えていきたい。ゲンバイトンボは行動範囲の広い生き物ではないため、生息箇所を増やしていくというよりは今いる箇所をしっかりと保全していくことを考えている。

(丸山会長)

ゲンバイトンボの生活史は分かっているのか。また、ゲンバイトンボの生息の制限因子となるものは分かっているのか。住民が良かれと思ってしたことが逆に生息数の減少につながってしまうこともあるかもしれない。

(環境政策課)

現在実施しているゲンジボタルの保全同様、しっかりとゲンバイトンボのことも住民にお伝えしていきたい。

ゲンバイトンボはヤゴの時は川の中におり、成虫になると草場で生息している。鳥川ホタル保存会の方々にもすでにゲンバイトンボの保全に協力していただいております、ゲンバイトンボの成虫が発生する時期は草刈りを自粛していただくことをしている。

(鳥山委員)

ゲンジボタルの場合はホタルが光るのでどこにいるか、どれだけいるかが把握できるが、ゲンバイトンボの場合は目につきづらいと思う。岡崎市がゲンバイト

ンボの保全に力をいれていることを「見える化」することも大事であると思う。

(環境政策課)

グンバイトンボがどれほど希少なもので、どういった生き物なのかということ、看板を設置するなどして周知していければと考えている。また、ホームページ等のメディアを通して周知を図れればと考えている。

(吉永委員)

グンバイトンボの減少について、捕獲によって減少したというよりは気候変動の影響がある。資料にも豪雨により生息数が激減したことが書かれている。大雨や少雨等の気候変動の影響は避けようがないので、絶滅を回避するには積極的な関与を何かしらしないといけない。生息する箇所だけを守っていても、気候は変わっていくので手遅れになってしまうこともある。そのあたりも次のステップとして専門家の人と検討していったほしい。

(渡邊委員)

動物も植物も基本的には生活史はほとんど把握されていない。グンバイトンボも同様でほとんどわかっていない。そのため、知らないうちに減少してしまっている。指定希少野生動植物種に指定したまま何も進んでいないという事例は多くあるので、生活史を調べ、調査結果のもと保全を行っていく必要がある。グンバイトンボで分かっていることとしては、清流の付近に生息しているので、清流を守る必要があるということである。そのためには一つは地球温暖化対策、もう一つはシカの食害を防ぐことが必要である。シカが表土の草を食べてしまい、土砂が川に流出することで川が濁ってしまう。シカの捕獲をどうしていくかということも検討する必要がある。

また、ゼロカーボンの推進ともリンクさせることができると思う。気候変動が進むとグンバイトンボは絶滅してしまうといったように、我々の身近なところに気候変動の影響を結びつけていくことも検討したらどうか。

(4) 岡崎市一般廃棄物処理実施計画における家庭系ごみの分別区分の変更について (答申)

事務局より前回の審議会からの修正点はない旨を説明した。

質疑応答なし

会議資料

令和5年度第1回岡崎市環境審議会次第
岡崎市環境審議会運営規定

岡崎市環境審議会委員名簿

岡崎市環境審議会配席図

諮問書（写） 岡崎市における気候変動対策推進のあり方について

議題２資料 岡崎市における気候変動対策推進のあり方について

諮問書（写） 岡崎市指定希少野生動植物種の指定について

議題３資料① グンバイトンボの岡崎市指定希少野生動植物種の指定について

議題３資料② グンバイトンボ概要

答申書（案） 岡崎市一般廃棄物処理実施計画における家庭系ごみの分別区分の変更について